



Department of Civil and Environmental Engineering

社会環境工学科

社会基盤工学や環境工学を学ぶ



社会環境工学科 学科長 岡野 素之 教授

社会環境工学科は、地球的視点から地域環境を理解し、地域社会の安全・安心・快適性を可能とする地域社会整備技術分野の技術者を養成するための教育を行います。そのため、本学科内に、自然環境との共生を視野に入れた社会資本整備を扱う社会基盤工学分野と、地球環境を視野に入れた水や大気に関する地域環境整備を扱う環境工学分野を設けています。学生はそれぞれの専門科目を受講することにより、特徴を持った学習が可能となるようなカリキュラムを編成しています。

ADMISSION POLICY

社会環境工学科では、学科の掲げる学習・教育到達目標に基づいた教育プログラムを通し、社会資本の整備や自然環境の保全に取り組む土木・環境工学分野の技術者の養成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

01

道路、河川、港湾、鉄道、都市施設の整備・維持管理方法や、地震等による自然災害から市民生活を守るための対策について関心がある

02

水、大気等に生じている種々の環境問題に興味がある

03

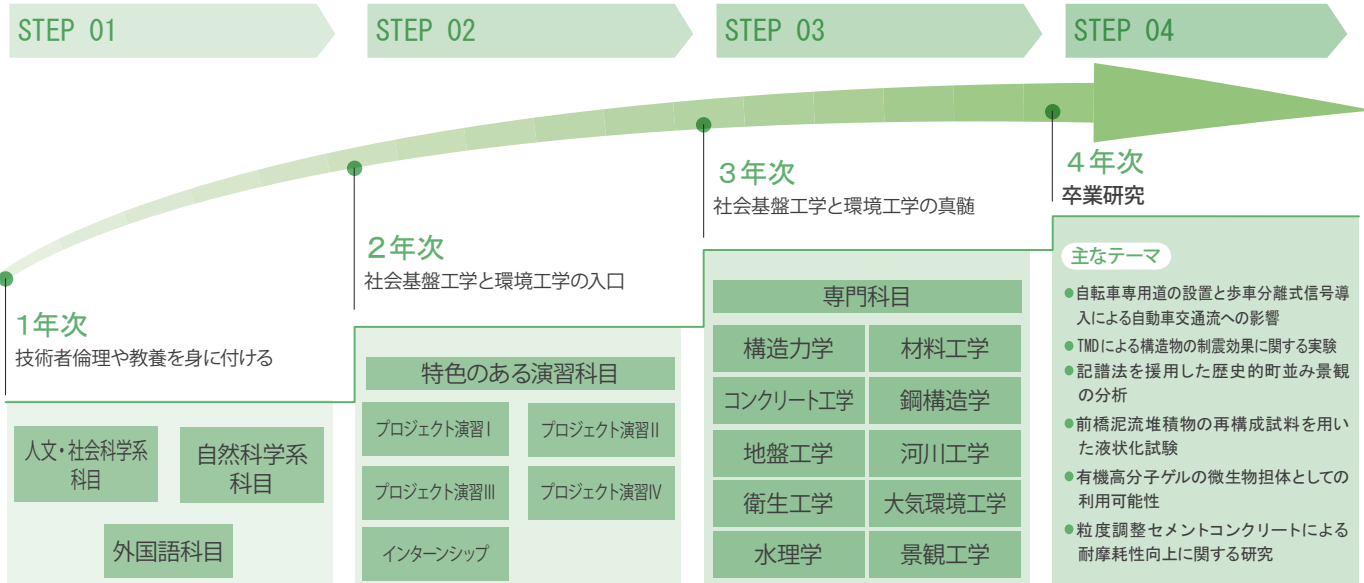
自然現象や社会現象の調査分析や実験等に興味があり、それらを通じて自然科学や社会科学の原理や原則を探究したいと考えている

04

広くものづくりに関心が高く、数学と物理の基礎を身に付けている

CURRICULUM

社会環境工学科で掲げた教育理念・目的・目標を達成するために、以下のカリキュラムを開設し、年次に従って実施しています。



3年間でできるようになること

01

教養科目を中心に学び、
また社会基盤・環境工学の
基礎を身に付ける

教養科目(外国語、人文・社会科学系科目)や工学の基礎となる数学や物理学などを中心に学びます。また社会基盤・環境工学が社会において果たす役割や社会に及ぼす影響について学び、それぞれの基礎も学ぶことができます。

02

実験・実習を通して
体験的に学び、
理解を深める

講義で学んだ知識を用い、様々な実験・実習などを行います。実際に自分の目で見て、体で感じるにより学んだ理論と実現象を整合させ、理解と想像力を深めることができます。

03

興味を持った専門分野に
ついてより深く学ぶ

科目の選択肢が広がるので、自分の興味を持った分野について深く学ぶことができます。夏休み中のインターンシップでは、私たちが学んでいることが社会にどう活かされているのかを体感することができました。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
前期		後期		前期		後期	
専門教育科目	必修	社会環境工学概論 構造力学Ⅰ 基礎力学演習 環境の科学	構造力学Ⅱ 測量学Ⅰ 応用数学	建設材料 構造力学Ⅲ 測量実習Ⅰ 循環システム工学 プロジェクト演習Ⅰ	コンクリート工学Ⅰ 地盤工学Ⅰ 水理学 水理学演習 計画数理 工学情報処理 プロジェクト演習Ⅱ	鋼構造学 コンクリート工学Ⅱ	防災工学
	選択		構造解析演習	測量学Ⅱ	地盤工学Ⅱ 交通計画 環境水質工学	コンクリート工学Ⅲ 地域・都市計画	
	必修			景観原論	地盤・材料実験 プロジェクト演習Ⅲ	水・環境実験 プロジェクト演習Ⅳ	卒業研究
	選択必修			水文学	河川工学 観光・レクリエーション計画 測量実習Ⅱ インターンシップ	構造物設計論 維持管理工学 水環境工学 建設マネジメント	構造耐震工学 色彩工学

社会環境工学科は、国際的に通用する技術者の育成を目的として設立された一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)で認定された教育プログラムを実施しています。